

2019年 地元中小企業における若手社員の就職実態調査

●はじめに

当地区中小企業の新入・若手社員を対象に、就職実態を把握するためアンケート調査を実施した。概要は以下の通り。

●調査概要

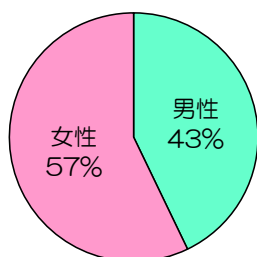
調査時期 : 平成31年4月4日(木)～5日(金)

「せいしんビジネスクラブ」新入・若手社員研修開催時

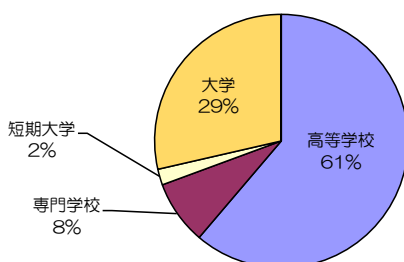
調査対象 : 静清信用金庫取引先企業の経営者で構成する異業種交流会「せいしんビジネスクラブ」会員企業の新入・若手社員

調査対象者数 : 61名 有効回答者数: 49名 有効回答率: 80.3%

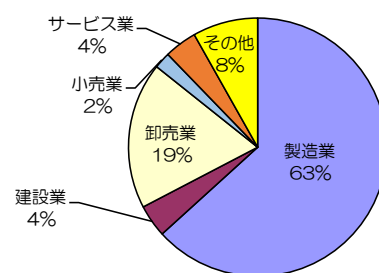
◆性別(n=49)



◆最終学歴(n=49)



◆業種(n=49)



● 要旨

～大学生等の受験企業数は5.8社と2014年調査時8.9社から減少。～

～職場選定時、男性は「社風」、女性は「勤務条件」を重視する傾向。～

～男性は「人間関係等の良い職場」、女性は「プライベートを充実できる職場」を求めている。～

◆ 受験企業数

- ・高校生では、「1社のみ」が86.7%と受験企業数を絞って就職活動していた様子が窺える。
- ・大学生等では、「2～5社」が47.4%と最多で、平均受験企業数は5.8社と、2014年調査(8.9社)から▲3.1社と減少した。

◆ 現在の会社を知った手段

- ・高校生では、「学校の就職室」(86.7%)が突出した一方、より具体的に就業をイメージできる「インターンシップ」(10.0%)を活用している様子も窺えた。
- ・大学生等では、「合同企業説明会」が57.9%と最多で、2014年調査と比べ+30.6ポイントと大幅に増加。説明会で『リアル』な情報を得ようとする動きがみられた。

◆ 職場の選定理由

- ・男性では、「仕事の内容」が52.4%で最多となり、次いで、「社風」(38.1%)となった。2014年調査と比べ、「社風」が+32.0ポイントとなり、企業の雰囲気や価値観を重視する様子が窺えた。
- ・女性では、「仕事の内容」が53.6%で最多となり、次いで、「勤務条件」(46.4%)となった。2014年調査と比べ、「勤務条件」が+25.0ポイントとなり、働きやすさを重視する様子が窺えた。

◆ 会社に望むこと

- ・男性では、「人間関係等の職場環境が良い」が71.4%で最多となり、2014年調査と比べ+35.0ポイントと大幅に増加した。
- ・女性では、「自分の時間(休暇・余暇)が持てる」が64.3%で最多となり、2014年調査と比べ、+50.0ポイントと大幅に増加した。「プライベートを充実できる職場」を求めている様子が窺えた。

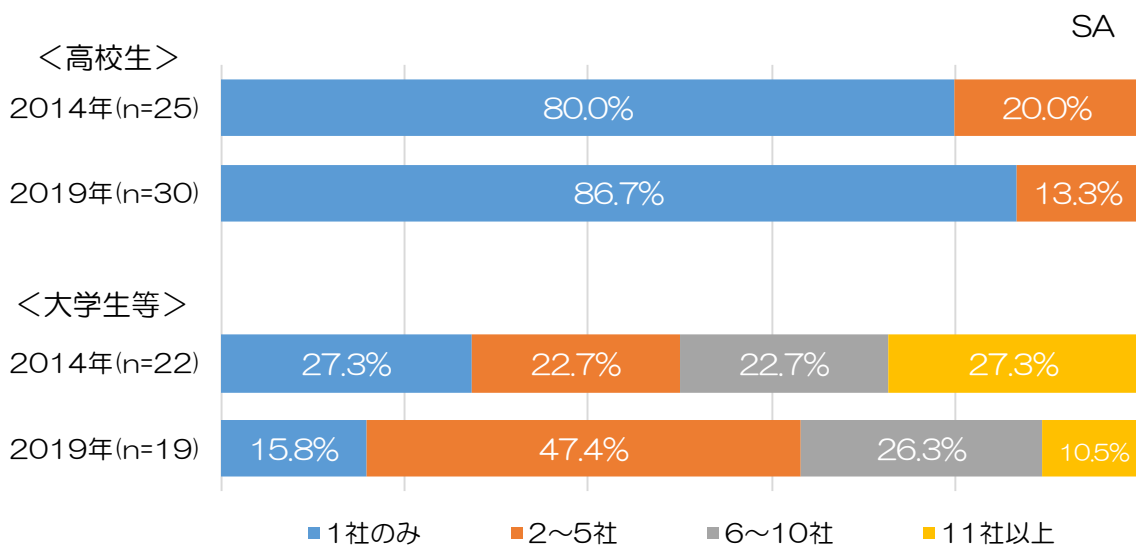
本調査は、静岡県中部地区の中小企業に就職した新入・若手社員を調査対象としたものであり、2014年（5年前）に実施した調査と比較し、近年の若手社員の傾向を捉えた。

本調査結果が、若手社員の採用および育成・指導の参考となれば幸いである。

<参考> 2014年当時と2019年調査時の比較

項目	2014年	2019年
日経平均株価	14,946円（4月2日終値）	21,509円（4月1日終値）
米ドル対円相場	103.20円（4月1日仲値）	111.10円（4月1日仲値）
有効求人倍率	1.08倍（4月）	1.63倍（4月）
業況判断DI（全産業）	+12（3月）	+12（3月）
前年の主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山が世界文化遺産に ・消費税8%へ引き上げ決定 ・オバマ米大統領の2期目スタート ・流行語年間大賞「今でしょ!」「倍返し」「じぇじぇじぇ」「おもてなし」 	<ul style="list-style-type: none"> ・平昌五輪、日本13メダル ・大坂なおみが全米オープン優勝 ・2025年万博、大阪で開催決定 ・流行語年間大賞「そだねー」 ・改正入管法成立

1. 受験企業数について



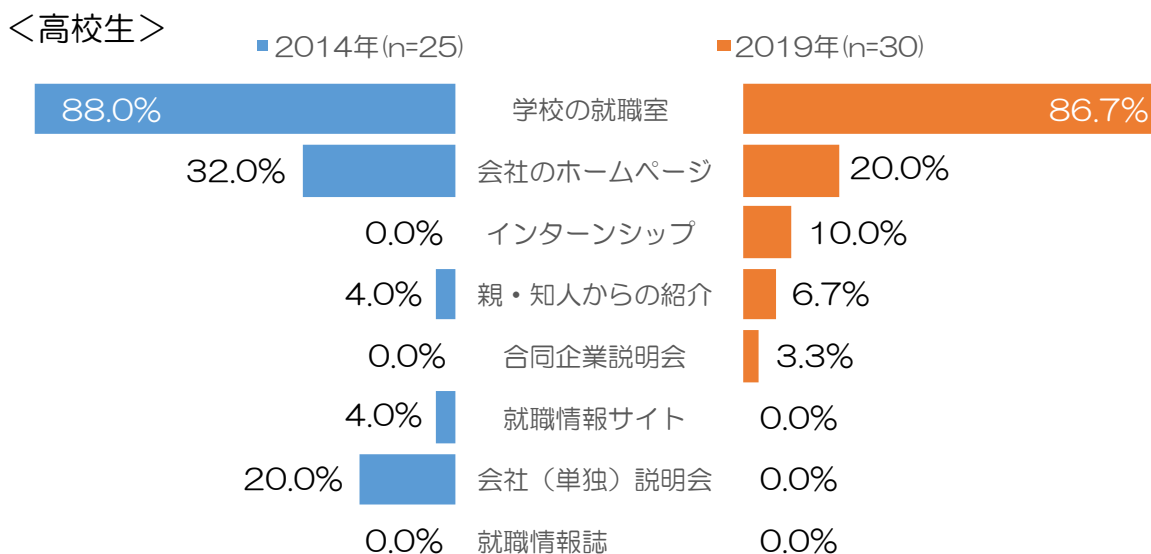
受験企業数について尋ねたところ、高校生は、「1社のみ」が86.7%と2014年調査から6.7ポイント増加しており、受験企業数を絞って就職活動している様子が窺える。

大学・短大・専門学校生（以下、大学生等）は、「2~5社」が47.4%と最多で、2014年調査と比べ、+24.7ポイントと増加した。また、「11社以上」が10.5%と2014年調査と比べ、▲16.8ポイントと減少しており、受験企業数が減少している様子が窺える。

なお、大学生等の平均受験企業数は5.8社となっており、2014年調査（8.9社）から▲3.1社と減少している。

2. 現在の会社を知った手段

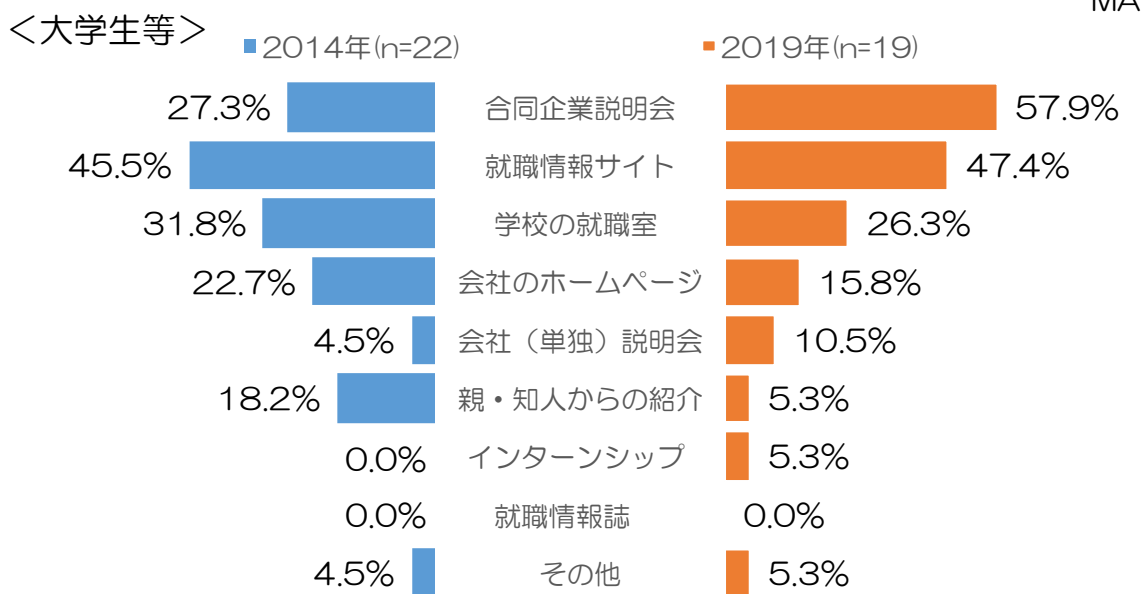
MA



現在の会社を知った手段について尋ねたところ、高校生では、「学校の就職室」が 86.7%と突出しており、2014 年調査と同様に学校のサポートによる就職活動が主体となっているようだ。

一方、2014 年調査では「会社（単独）説明会」が 20.0%あったが、本調査では 0.0%となり、「インターンシップ」が 10.0%となった。

高校生向けの採用活動においても、単なる説明会だけでなく、より具体的に就業をイメージできるインターンシップを活用している様子が窺えた。



大学生等では、「合同企業説明会」が 57.9%と最多で、次いで「就職情報サイト」が 47.4%となり、この 2 項目に集中した。

2014 年調査と比べ、「合同企業説明会」への参加が+30.6 ポイントと増加しており、インターネット上の情報よりも、説明会で『リアル』な情報を得ようとする動きがみられた。

3. 職場の選定理由

MA

<男性>

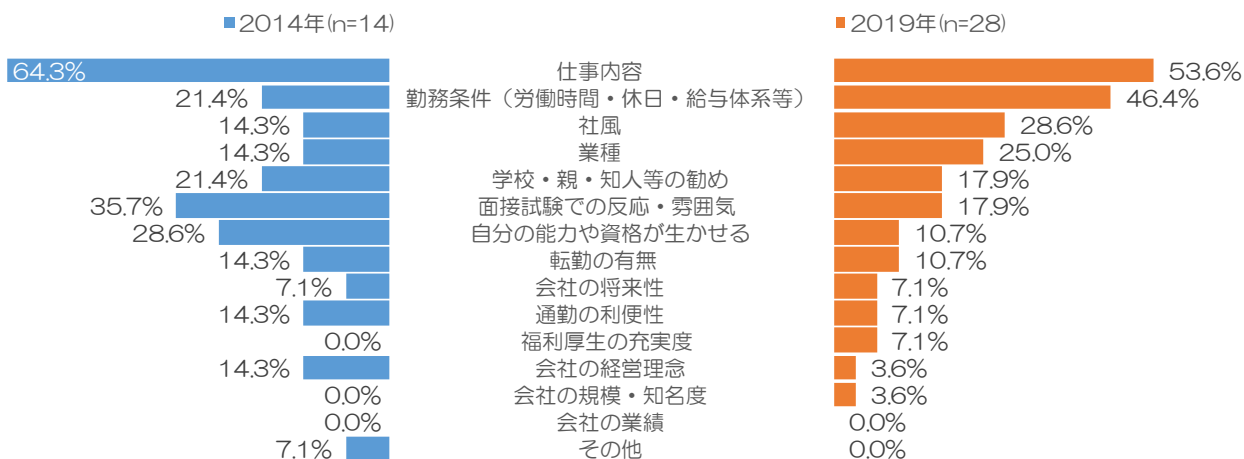


職場の選定理由について尋ねたところ、男性では、「仕事の内容」が52.4%で最多となり、次いで、「社風」(38.1%)、「業種」(33.3%)となった。

2014年調査と比べ、「社風」が+32.0ポイントと大幅に増加しており、その企業の雰囲気や価値観が自分に合っているのかを見ている様子が窺えた。

<女性>

MA



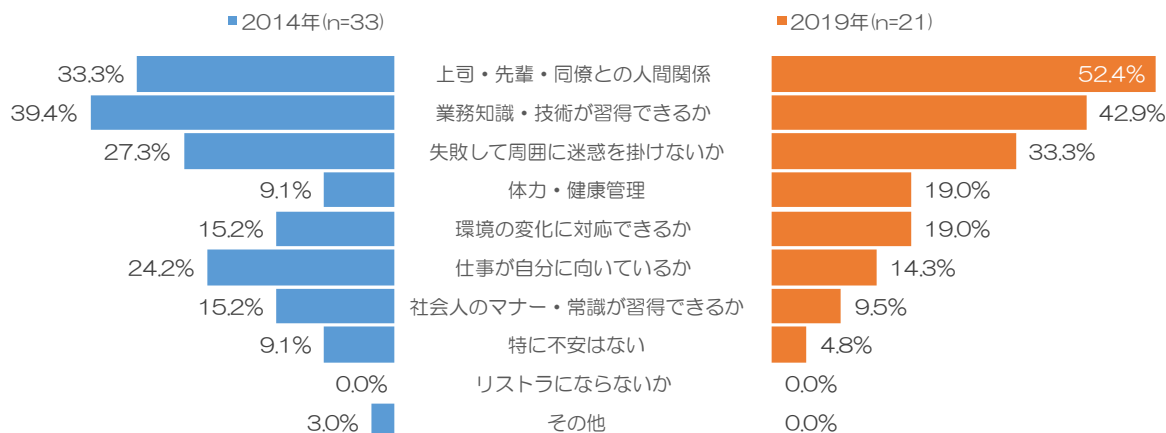
女性においても、「仕事の内容」が53.6%で最多となり、次いで、「勤務条件」(46.4%)、「社風」(28.6%)となった。

2014年調査と比べ、「勤務条件」が+25.0ポイント、「社風」が+14.3ポイントと増加しており、女性が働きやすい環境や体制が整っているかどうかを見ている様子が窺えた。

4. 職場生活で不安に感じていること

MA

<男性>

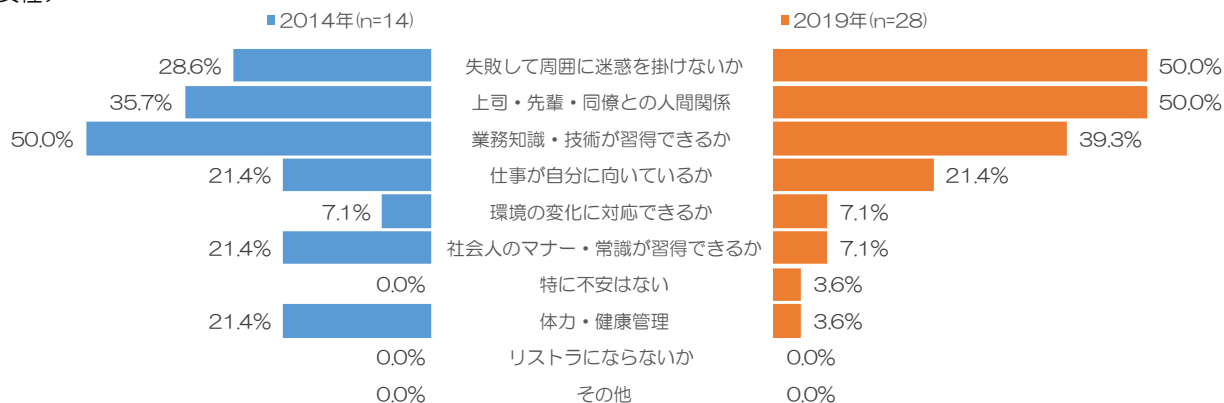


職場生活で不安に感じていることについて尋ねたところ、男性では、「上司・先輩・同僚との人間関係」が 52.4%で最多となり、次いで、「業務知識・技術が習得できるか」(42.9%)、「失敗して周囲に迷惑を掛けたくないか」(33.3%)となった。

2014年調査と比べ、「上司・先輩・同僚との人間関係」が+19.1ポイントと増加しており、自身がその企業に馴染めるのかを不安に感じている様子が窺えた。

<女性>

MA



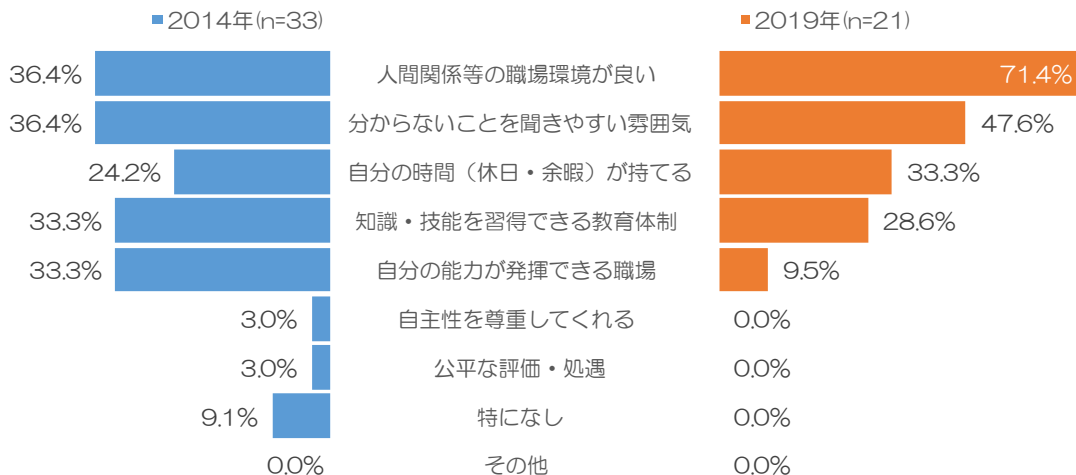
女性では、「失敗して周囲に迷惑を掛けたくないか」、「上司・先輩・同僚との人間関係」がともに 50.0%で最多となり、次いで「業務知識・技術が習得できるか」(39.3%)となった。

2014年調査と比べ、「失敗して周囲に迷惑を掛けたくないか」が+21.4ポイント、「上司・先輩・同僚との人間関係」が+14.3ポイントと増加しており、人間関係の心配もさることながら、周囲に迷惑を掛けてしまうことを恐れている様子が窺えた。

5. 会社に望むこと

MA

<男性>



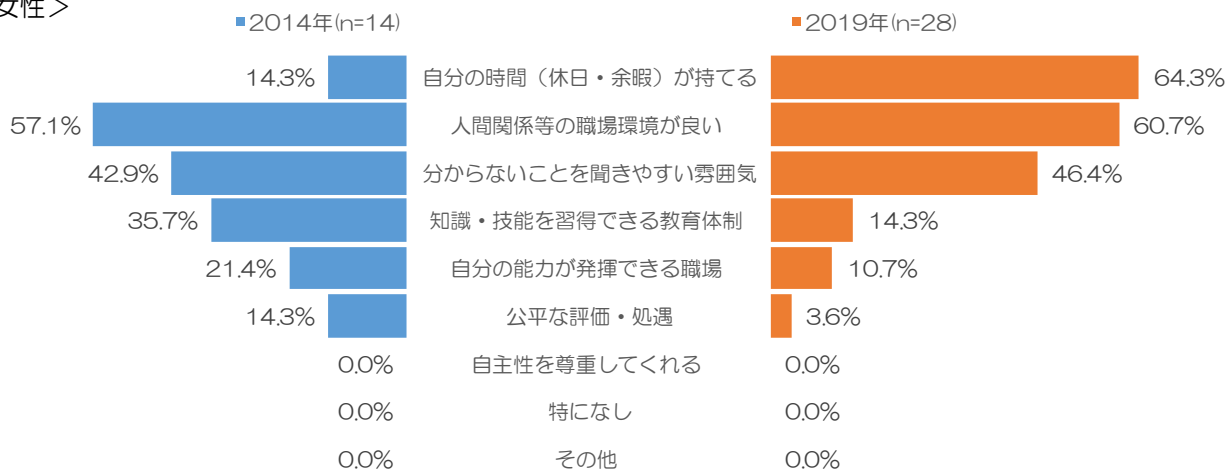
会社に望むことについて尋ねたところ、男性では、「人間関係等の職場環境が良い」が 71.4%で最多となり、次いで、「分からないことを聞きやすい雰囲気」（47.6%）となった。

2014年調査と比べ、「人間関係等の職場環境が良い」が+35.0ポイント、「分からないことを聞きやすい雰囲気」が+11.2ポイントと増加した一方、「自分の能力が発揮できる職場」が▲23.8ポイントと減少していた。

『自身が活躍できる職場』というよりは、『風通しが良い職場』を会社に求めている様子が窺えた。

<女性>

MA



女性では、「自分の時間（休暇・余暇）が持てる」が 64.3%で最多となり、次いで、「人間関係等の職場環境が良い」（60.7%）となった。

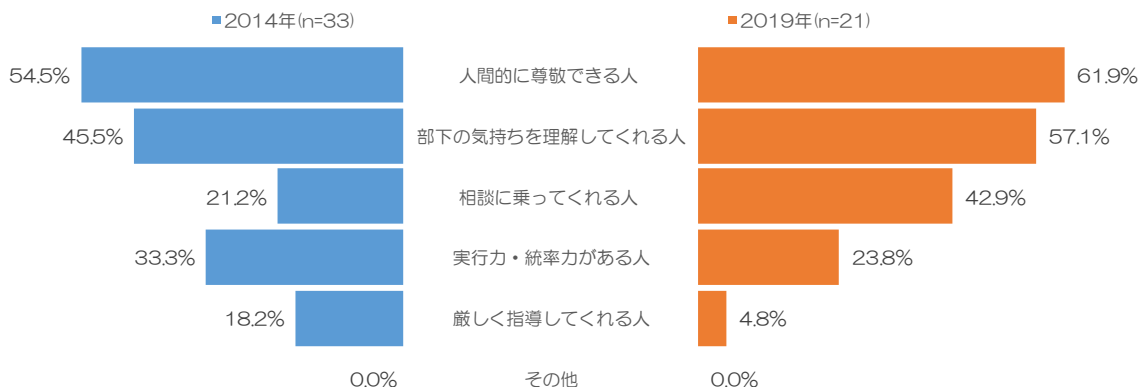
2014年調査と比べ、「自分の時間（休暇・余暇）が持てる」が+50.0ポイントと大幅に増加した一方、「知識・技能を習得できる教育体制」が▲21.4ポイント、「自分の能力が発揮できる職場」が▲10.7ポイントと減少した。

女性では、「プライベートを充実できる職場」を求めている様子が窺えた。

6. 理想の上司像

MA

<男性>



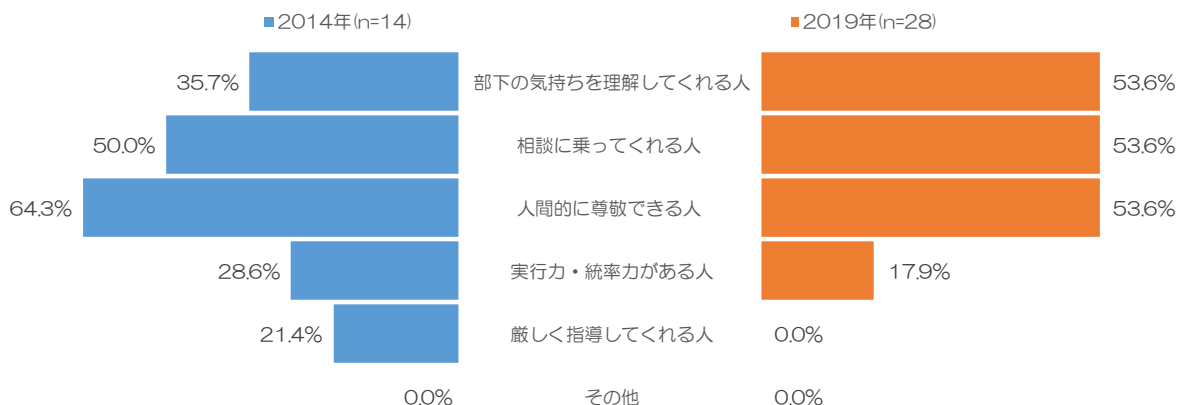
理想の上司像について尋ねたところ、男性では、「人間的に尊敬できる人」が61.9%で最多となり、次いで、「部下の気持ちを理解してくれる人」(57.1%)となった。

2014年調査と比べ、「相談に乗ってくれる人」が+21.7ポイントと大幅に増加した一方、「厳しく指導してくれる人」が▲13.4ポイントと減少した。

男性の傾向としては、「温厚で理解のある上司」を求めている様子が窺えた。

<女性>

MA



女性では、「部下の気持ちを理解してくれる人」「相談に乗ってくれる人」「人間的に尊敬できる人」がいずれも53.6%で最多となった。

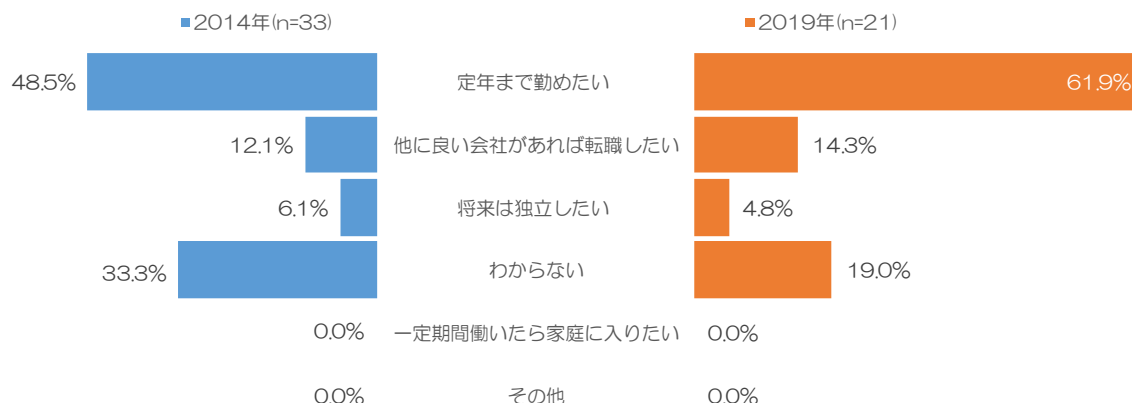
2014年調査と比べ、「部下の気持ちを理解してくれる人」が+17.9ポイントと増加した一方、「厳しく指導してくれる人」が▲21.4ポイントと減少した。

男性と同様に、「温厚で理解のある上司」を求めている様子が窺えた。

7. 希望勤務年数

SA

<男性>

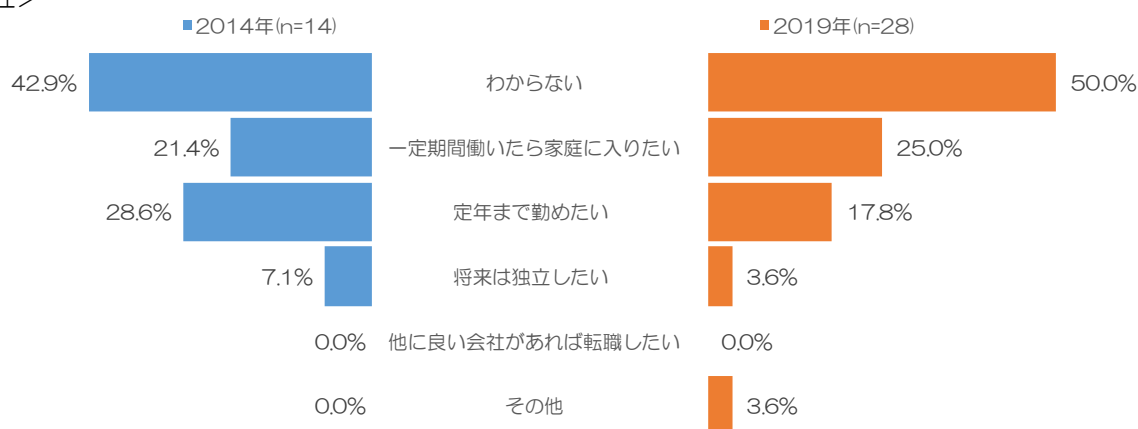


希望勤務年数について尋ねたところ、男性では、「定年まで勤めたい」が61.9%で最多となり、次いで、「わからない」(19.0%)、「他に良い会社があれば転職したい」(14.3%)となった。

2014年調査と比べ、「定年まで勤めたい」が+13.4ポイントと増加しており、終身雇用を望む傾向が窺えた。

<女性>

SA



女性では、「わからない」が50.0%で最多となり、次いで、「一定期間働いたら家庭に入りたい」(25.0%)、「定年まで勤めたい」(17.8%)となった。

2014年調査と比べ、「定年まで勤めたい」が▲10.8ポイントと減少しており、「わからない」が+7.1ポイント、「一定期間働いたら家庭に入りたい」が+3.6ポイントと増加した。

「わからない」が半数を占めたということは、不安定な雇用状況にあることが窺える。雇用の確保が困難な状況にある昨今、女性が働きやすい職場づくりが、雇用の安定化に繋がるものと思われる。

(静清信用金庫 経営相談部 令和元年6月作成)